

### (3) 島しょでのブランド畜産物の確立と畜産の観光資源化

#### 輸送経費等による生産コストの負担軽減

##### 課題

- 島しょ地区では、港までの陸送、海上輸送、そして島内陸送と複数の輸送手段を使うため飼料代や出荷経費などコストが割高になり、畜産経営を困難なものにしています。一方で、生産と消費の現場が近い顔の見える畜産業や島を訪れる観光客への特産品生産が求められています。

##### 対応

- 「島しゃも<sup>※46</sup>」等の地産地消が可能な、地域ブランド畜産物の確立を目指します。
- 八丈島や青ヶ島、小笠原などの島しょと、多摩地区の和牛のリレー生産を支援します。
- 島内産牛乳を利用した乳製品を開発し、島内産牛乳の消費拡大と乳製品のブランド化を推進します。

#### 島しょ畜産の優位性

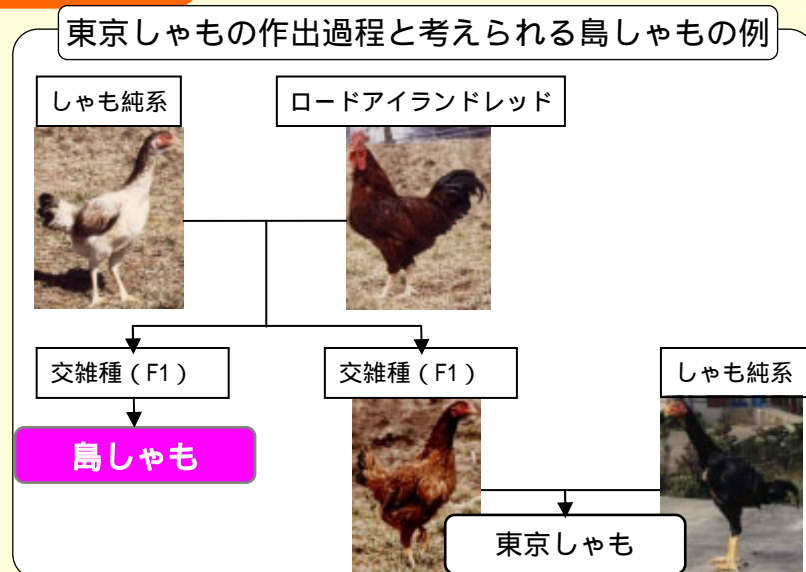
島しょ地域は、温暖な気候と豊かな自然に囲まれ、ハチジョウススキ<sup>47</sup>などの豊富な草資源により、畜産を行う地理的条件に恵まれている反面、飼料と生産物の輸送コストが高いことなど不利な面もあります。

そのような条件を考慮しても、島内で生産し消費できる畜産物の生産は、生産物の新鮮さなどを武器に有利な畜産経営として期待できます。



#### 新たなブランド「島しゃも」の開発

東京しゃもを作る際に用いる、しゃも<sup>※48</sup>、ロードアイランドレッド<sup>※49</sup>、交雑種(F1)等を活用し島しょでの飼養に適した「島しゃも」の作出を検討します。



## 畜産の観光資源としての活用と島内産牛乳の販売促進

### 課題

- 観光客の減少や、低温流通システム<sup>※50</sup>の発達により島外から安価な牛乳が入るようになったことで、島内産牛乳の消費量が減少し、島内の酪農家や牛乳工場の経営を圧迫しています。このため、島内産牛乳の需要拡大策が求められています。

### 対応

- 牛乳工場や公共牧場を観光拠点として位置付け、乳製品の観光客向けの販売を促進します。

## ～島別の振興方策～

東京には、多くの島しょがあり、それぞれの地域に適した畜産業が営まれています。

それぞれの島にあった畜産振興策を展開していきます。

### 【大 島】

島内にある牛乳工場を観光拠点としても活用します。

島内産牛乳のシェアの拡大を図ります。

### 【三宅島】【御蔵島】

島内自給用の島しゃも、東京うこっけい<sup>※51</sup>の飼養を定着させます。

### 【八丈島】

島内産黒毛和種<sup>※52</sup>の子牛の良好な育成を目指します。

島内産牛乳のシェア拡大と乳製品の開発に取り組みます。

### 【青ヶ島】

島内自給用の島しゃも、東京うこっけいの飼養を定着させます。

黒毛和種の牛については、飼養者の確保や都内肥育農家<sup>※53</sup>との連携を強化します。

### 【小笠原】

採卵鶏・肉用鶏を島内で自給するための体制を整備し、飼養技術の向上を図ります。